速報版

第１回 新潟市新バスシステム事業評価委員会 議事概要

■日時：平成 27 年 8 月 28 日（金） 14:00～15：50

■場所：ホテルラングウッド新潟 越後東の間

■出席者（敬称略）

委員

谷口守（筑波大学教授）

大串葉子（新潟大学准教授）

鈴木文彦（交通ジャーナリスト）

大高知史（新潟商工会議所理事・事務局長：代理出席）

時田美和（新潟青年会議所副理事長）

豊岡克（新潟市区自治協議会会長会議座長）

オブザーバー

瀬井威公（国土交通省北陸信越運輸局交通政策部長）

伴孝之（新潟県警察本部交通規制課長）

■議事概要

(1) 委員長選出

谷口守（筑波大学教授）委員を委員長に選出。

(2) 評価指標に対する主な意見（資料 1～資料 5）

- 地図などを用いながら、路線再編の内容やサービスレベル、利用実態を整理していくと効果が分かりやすいのではないか。
- 効果についてもデータからとれるものだけでなく、もう少し幅広い観点で検討したらどうか。バスに関する取り組みは、バス単体の話にとどまらず、教育や福祉など幅広い観点から整理したほうがよい。
- 高齢者や障害者にとって BRT が乗りやすいという視点も考えてはどうか。
- 交通とまちづくりは相互に影響しているので、「まち」が「公共交通」を支えているかという観点からの整理も必要。
- IC カードのデータを可能な限り活用・検証して、それを次なる改善や路線再編につなげていくことが必要。
- 適切に PR を行い、結果として、新たな利用者層をどれだけ取り込めたのかという観点も重要ではないか。
- 他都市の事例で、ダイヤを等間隔化し、わかりやすくすることで、利用者が「バスが使いやすくなった」と感じられた実績があった。

(3) 委員会の進め方に関する主な意見（資料 6）

- 開業直後や冬期の状況などの情報をいち早く共有するため、評価委員会は年に 1 回にとどまらず、増やしていくべきではないか。
- 開業直後は必ず混乱は起こるものであり，時間がたてばおさまるものもある。一方で、早く改善すべきところの対応ができるような仕組みも必要であるため、開業後の状況をとりまとめ、年内くらいには議論の機会があったほうがよい。

以上